国立大学法人 長崎大学

熱帯医学・グローバルヘルス研究科 博士後期課程

長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院

国際連携グローバルヘルス専攻

（NU - LSHTM Joint PhD Programme

for Global Health）

学生の確保の見通し等を記載した書類

目　　次

１　学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（１）グローバルヘルス専攻について・・・・・・・・・・・・・・・・2
① 学生・大学院生を対象としたアンケート結果について・・・・3
② 社会人を対象としたアンケート結果について・・・・・・・・・6
③ 研究科としての見通しについて・・・・・・・・・・・・・・・・7
（２）国際連携専攻について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
（３）学生確保に向けた具体的な取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・9
① 具体的な取り組み状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
② 上記①による効果，反応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

２　社会的な人材需要の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
（１）アンケート調査に基づく分析・・・・・・・・・・・・・・・・・13
① 企業を対象としたアンケート結果について・・・・・・・・・・13
② 研究科としての見通しについて・・・・・・・・・・・・・・・・13

○別添「説明資料」
進学検討者の実受験率を１割と仮定することについて・・・・15
○別添「コメント集」
TMGH 修士課程進学説明会時のコメント・・・・・・・・・・・16
○別添「アンケート様式：例」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
○別添「アンケート調査結果：グラフ」・・・・・・・・・・・・・・・・21

１　学生確保の見通し

長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科博士後期課程（以下「TMGH 博士後期課程」という。）は，既存の熱帯医学・グローバルヘルス研究科修士課程（以下「TMGH 修士課程」という。）を基盤として，学術交流協定を締結しているロンドン大学衛生・熱帯医学大学院(London School of Hygiene and Tropical Medicine，以下「LSHTM」という。）や国立国際医療研究センター（以下「NCGM」という。）等との連携を軸に，更なる機能強化を図り，より高いレベルの博士課程教育を実施し，国際的・社会的なニーズへ資すること及び本学の中期目標に謳われた世界的グローバルヘルス教育研究拠点となることを目的に設置するものである。

我が国においては，グローバルヘルスという統合課題領域における博士を取得した実務家・実践者，実務経験がある研究者の割合が少ないという大きな課題が存在している。特に国際共同研究やプロジェクトのリーダー的立場にある日本人は少なく，また，日本で博士号を取得し，将来国際共同研究等でのカウンターパートになる博士人材も少ない。

この状況において，本研究科では，LSHTM とジョイントディグリー（PhD）創設により，TMGH 博士後期課程のみではなく，LSHTM の持つ強みを活用した共同のカリキュラムを構築し，グローバルヘルス領域における国際共同研究等のリーダーの養成及び TMGH と LSHTM，ひいては日本と英国の連携強化に資する TMGH 博士後期課程ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院−長崎大学国際連携専攻（以下「国際連携専攻」という。）を設置することとした。本専攻の修了生は，将来，日英が共同で推進する第 3 国での研究プロジェクトや実践プロジェクトのリーダーとして推進する能力に加え，日英のみならず，日本と欧米先進国や国際機関との連携強化を通じてグローバルヘルスを推進する能力を持った人材となる。

なお，本専攻の収容定員については，「国際連携学科等の収容定員は，母体となる学部等の収容定員の 2 割の範囲内」と規定されていることから，表 1 のとおり設定した。

TMGH 修士課程の定員は 37 名で，現在，本国際連携専攻と同時に TMGH 博士後期課程グローバルヘルス専攻設置（平成 30 年 4 月予定）の手続を定員 10 名の予定で進めており，母体となる TMGH 研究科の収容定員は合計 37～47 名となるため，国際連携専攻の収容定員の上限は 7～9 名となる。この上限を超えない範囲で，TMGH 及び LSHTM 両大学の受入や指導体制等を考慮し，収容定員は 5 名が適当であると判断した。設定した定員数は，後述するアンケート調査結果より，妥当な定員数と考える。

表 1

TMGH 修士課程 収容定員：37 名
TMGH 博士後期課程グローバルヘルス専攻 収容定員：10 名（予定）
TMGH 研究科 合計：37～47 名（予定）
37～47 名 ×0.2 ＝7.4～9.7　→　上限 7～9 名（予定）
TMGH 博士後期課程グローバルヘルス国際連携専攻 収容定員：5 名

（１）グローバルヘルス専攻について

国際連携専攻の収容定員の設定及びニーズ調査を実施するに当たり，まず，母体となる研究科の一部である TMGH 博士後期課程（グローバルヘルス専攻）の収容定員（10 名）を設定し，学生確保の見通しを立てる必要があった。

TMGH 博士後期課程（グローバルヘルス専攻）の具体的な学生確保の見通しを把握するため，①学内学部学生・大学院生への Web アンケート調査，②調査実施機関（株式会社帝国データバンク）への委託による学外学部学生・大学院生及び社会人を対象とした Web アンケート調査（別添「アンケート様式：例」参照）を実施したところ，表 2 のとおり，1, 329 名からの回答が得られた。

＜アンケート回答数＞　　表 2

対　象	回答数
学内学部学生・大学院生	299 名
学外学部学生・大学院生	515 名
社会人	515 名
合　計	1, 329 名

＜入学定員＞　10 名程度

アンケート回答者総数 1, 329 名のうち, TMGH 博士後期課程(グローバルヘルス専攻)が設置された場合，表 3 のとおり，「ぜひ進学したい」と回答した者が 93 名，「進学を検討したい」と回答した者が 262 名であった。現在学部学生として在籍中の学生は，即実際の受験者にはなり得ないが，将来的な進学希望者としての推測は可能と考える。

表 3

対　象	ぜひ進学したい	進学を検討する
学内学部学生・大学院生	30 名	43 名
学外学部学生・大学院生	30 名	98 名
社会人	33 名	121 名
合　計	93 名	262 名

① 学生・大学院生を対象としたアンケート結果について

学内及び学外の学部学生･大学院生で, TMGH 博士後期課程（グローバルヘルス専攻）へ「ぜひ進学したい」と回答した 60 名（別添「アンケート調査：グラフ」図 7 参照）を博士後期課程への進学が可能となる年次順に並び替えを行い分析した。

表 4 のとおり，TMGH 博士後期課程設置予定である 2018 年は 22 名，2019 年は 12 名，2020 年は 7 名，2021 年は 6 名，2022 年は 6 名，2023 年は 5 名が「ぜひ進学したい」と希望していることが分かる。（2 名は年次不明のため対象外とした。）

自身の進学先について明確なビジョンを持つ 2018～19 年度に進学可能な院生に希望者が集中しているが, 今後 6 年に渡り, 毎年 5 名以上の進学希望者があることが分かる。

また，次ページ以降に記載しているが,「進学を検討したい」という回答者が多いことを考慮すると，2020 年以降についても，自身の進学について具体的に検討する時期に入ると,「ぜひ進学したい」という意見になる者も増加していくものと考えられる。

なお,「ぜひ進学したい」と回答した理由をアンケート内で調査したところ，回答者の約 6 割が「熱帯医学やグローバルヘルスに興味があるから」,「国際協力，国際貢献に関わりたいから」を選択している。その他の理由としては,「将来働きたい分野に役立ちそうだから」51. 5%,「高度な研究ができそうだから」37. 9%,「熱帯医学や公衆衛生学の学位の取得を目指しているから」33. 3%があり,「その他」1. 5%の意見として,「グローバルヘルス分野の研究に貢献したいから」等の意見もあった。（別添「アンケート調査結果：グラフ」図 8 参照）

＜「ぜひ進学したい」と回答した 60 名について＞

年次	回答人数	進学可能な年次
博士･博士後期課程 4 年次生	4	2018
博士･博士後期課程 3 年次生	2	2018
博士･博士後期課程 2 年次生	0	2018
博士･博士後期課程 1 年次生	4	2018
修士･博士前期課程 2 年次生	11	2018
修士･博士前期課程 1 年次生	10	2019
学部課程 6 年生	1	2018
学部課程 5 年生	2	2019
学部課程 4 年生	7	2020
学部課程 3 年生	6	2021
学部課程 2 年生	6	2022
学部課程 1 年生	5	2023
不明	2	対象外
合計	60	－

表 4

進学可能な年次	**進学希望者人数**
2018	**22**
2019	**12**
2020	**7**
2021	**6**
2022	**6**
2023	**5**
合計	**58**

学内及び学外の学部学生・大学院生で，TMGH 博士後期課程（グローバルヘルス専攻）へ「進学を検討したい」と回答した 141 名（別添「アンケート調査：グラフ」図 7 参照）を博士後期課程への進学が可能となる年次順に並び替えを行い，分析した。

表 5 のとおり，TMGH 博士後期課程設置予定である 2018 年は 21 名，2019 年は 9 名，2020 年は 29 名，2021 年は 24 名，2022 年は 24 名，2023 年は 30 名が進学を検討したいと回答していることが分かる。（4 名は年次不明のため対象外とした。）

また，文部科学省 学校基本調査の調査結果より，修士課程修了後，博士課程等へ進学する割合が約 1 割であることから，本調査で「進学を検討したい」と回答した者が実際に TMGH 博士後期課程への進学を志願する割合を 1 割と仮定することとした。（別添「説明資料」参照）

その結果，「進学を検討したい」と回答した者の中から，今後 6 年に渡り，毎年平均 2 名以上の進学希望者が見込まれることが分かる。

＜「進学を検討したい」と回答した 141 名について＞　　表 5

年次	回答人数	進学可能な年次
博士･博士後期課程 4 年次生	1	2018
博士･博士後期課程 3 年次生	1	2018
博士･博士後期課程 2 年次生	1	2018
博士･博士後期課程 1 年次生	1	2018
修士･博士前期課程 2 年次生	9	2018
修士･博士前期課程 1 年次生	6	2019
学部課程 6 年生	8	2018
学部課程 5 年生	3	2019
学部課程 4 年生	29	2020
学部課程 3 年生	24	2021
学部課程 2 年生	24	2022
学部課程 1 年生	30	2023
不明	4	対象外
合計	141	－

進学可能な年次	進学検討者人数①	**進学希望者人数（①×0.1）**
2018	21	**2**
2019	9	**1**
2020	29	**3**
2021	24	**2**
2022	24	**2**
2023	30	**3**
合計	137	**13**

学部学生，大学院生の「ぜひ進学したい」と回答した者の実数及び「進学を検討したい」と回答した者から算定した人数について，進学希望者数をまとめると，表 6 のとおりとなる。今後 6 年に渡り，毎年少なくとも 8 名以上の進学希望者が見込まれることが分かる。

表 6

進学可能な年次	「ぜひ進学したい」	「進学を検討したい」×0.1	**進学希望者人数合計**
2018	22	2	**24**
2019	12	1	**13**
2020	7	3	**10**
2021	6	2	**8**
2022	6	2	**8**
2023	5	3	**8**
合計	58	13	**71**

② 社会人を対象としたアンケート結果について

社会人で，TMGH 博士後期課程（グローバルヘルス専攻）へ「ぜひ入学・進学したい」「入学・進学を検討したい」と回答した者は，それぞれ 33 名，121 名であった。社会人の TMGH 博士後期課程への高い関心が伺える結果となった。

「入学・進学を検討したい」と回答した者において，実際に TMGH 博士後期課程への進学を志願する者の割合を 1 割と仮定すると，12 名が志願するものと考える。（別添「説明資料」参照）

表 7 のとおり，「ぜひ入学・進学したい」と回答した 33 名に，上記 12 名を加算した合計 45 名が TMGH 博士後期課程への進学を志願するものと考える。

社会人の場合，大学在学生と異なり，志願する時期は個々人の状況によるものが大きく，実際の志願を行うタイミングの予測が困難であるため，①学生･大学院生を対象としたアンケートと同様に，今後 6 年間で志願するものと仮定し，6 年で割った人数（7 名）を毎年の進学希望者数として算定した。

なお，既存の TMGH 修士課程において，進学者の 9 割以上が社会人経験者であることから，修士課程同様，TMGH 博士後期課程においても社会人からのニーズは高いものと推測される。

なお，「ぜひ進学したい」と回答した理由をアンケート内で調査したところ，回答者の約 8 割が「国際協力，国際貢献に関わりたいから」を選択している。その他の理由としては，「熱帯医学やグローバルヘルスに興味があるから」45.5%，「将来働きたい分野に役立ちそうだから」21.2%，「熱帯医学や公衆衛生学の学位の取得を目指しているから」18.2%，「高度な研究ができそうだから」18.2%という結果になった。（別添「アンケート調査結果：グラフ」図 15 参照）

表 7

「ぜひ進学したい」	「進学を検討したい」 ×0.1	進学希望者人数 合計
33	12	45

※45÷6＝7.5　今後 6 年に渡り，毎年 7 名程度の進学希望者があるものと推測する。

③ 研究科としての見通しについて

①学生・大学院生及び②社会人を対象としたアンケート結果から，今後 6 年に渡る志願者数は，表 8 のとおりとなった。募集定員が 10 名であることから，定員を超過する志願者が見込まれることが分かる。

加えて，平成 28 年度 TMGH 修士課程における受入学生の半数は留学生であることから，TMGH 博士後期課程においても，海外からの進学希望者を十分に想定できるため，表 7 の合計欄をはるかに上回る志願者数になるものと判断できる。

表 8

進学可能な年次	学生・ 大学院生	社会人	**合計**
2018	24	7	**31**
2019	13	7	**20**
2020	10	7	**17**
2021	8	7	**15**
2022	8	7	**15**
2023	8	7	**15**
合計	71	42	**113**

＜長期的見通し＞

TMGH 博士後期課程では，既存の TMGH 修士課程と同様，授業を全て英語で実施する。また，LSHTM と全面的に連携し，海外から著名な研究者や教員等を共同研究者，グローバルヘルス特論講師および研究アドバイザリーボードメンバーとして招聘することにより，世界最高水準の博士レベルの教育研究指導を実施することから，外国人留学生の志願者を獲得することが出来ると考えられる。

また，②社会人を対象としたアンケート結果からも社会人の TMHG 博士後期課程に対する関心が高いことが分かるが，熱帯医学研修課程フォローアップ事業開催時のアンケートからも，「社会人が働きながら学べるプログラムがあると良い（ビデオ・インターネット等)」,「東京キャンパスでは就労者でも受講可能で且つ修士・博士課程等があれば直にでも入学したい（ナースや臨床検査技師等に門戸を開いてほしい)」等，平成 29 年 4 月に設置予定の「NCGM サテライト東京」についての要望も多く寄せられているため，更なる需要が期待できる。

昨今の伊勢志摩サミット，TICAD6 等に代表される国際会議及びそれに付随した我が国の国際保健外交戦略から，社会的に当該領域での人材が求められていることを鑑みると，本研究科に対するニーズは継続していくものと考えられ，更なる学生確保のための取組を展開してくことにより，TMHG 博士後期課程を維持していくに足る十分な志願者を長期的かつ安定的に確保することが可能であると判断する。

（２）国際連携専攻について

LSHTM とのジョイントディグリーが創設された場合に，国際連携専攻へ「ぜひ進学したい」と回答した学生及び大学院生は 54 名，社会人は 35 名，合計 89 名という結果となった。この 89 名を博士後期課程への進学が可能となる年次順に並び替えを行ったところ，表 9 のとおりとなった。6 年に渡って，継続的に収容定員を大きく上回る進学希望者が見込まれることが分かる。

とりわけ社会人においては，前述した TMGH 博士後期課程（グローバルヘルス専攻）のアンケートで「ぜひ入学・進学したい」「入学・進学を検討したい」と回答した人数を上回る結果が出ており，社会人の国際連携専攻に対する関心の高さが伺われた。（別添「アンケート調査結果：グラフ」図 14，16 参照）

また，TMGH 博士後期課程（グローバルヘルス専攻）には「進学したくない」と回答した学生及び大学院生の中には，国際連携専攻へは「ぜひ進学したい」と回答している者もいることから，本研究科が LSHTM と連携することによって，新たな志願者の獲得に繋がることが分かる。

LSHTM とのジョイントディグリー創設が本研究科へもたらす効果は，教育研究の更なる発展は元より，優秀な学生の確保等の側面において，多大な好影響を与えるものと考える。

以上により，学生及び社会人の国際連携専攻への関心度は高く，本研究科が設定した収容定員 5 名をはるかに上回る志願者を継続的に確保できるとものと判断する。

表 9

進学可能な年次	学生・ 大学院生	社会人	**合計**
2018	16	5	**21**
2019	16	5	**21**
2020	4	5	**9**
2021	3	5	**8**
2022	7	5	**12**
2023	6	5	**11**
合計	52（※1）	30（※2）	**82**

※1　54 名のうち 2 名は年次不明のため対象外とした。54-2＝52

※2　今後 6 年間で志願するものと仮定し，6 年で割った人数を毎年の進学希望者数として算定する。

35(名)÷6(年)＝5.8(名)　→毎年の進学希望者数を 5 名とする。

（３）学生確保に向けた具体的な取組

① 具体的な取組状況

TMGH 博士後期課程の設置計画が具体化した時点から，学生確保のため，国内外において下記のような取組を行ってきた。

ア）学会会場へのブースの出展による PR
- 第 74 回日本公衆衛生学会（平成 27 年 11 月 4 日～6 日，長崎市）
- 第 56 回日本熱帯医学会学会（平成 27 年 12 月 4 日～6 日，吹田市）
- 第 30 回日本国際保健医療学会（平成 27 年 11 月 21 日～22 日，金沢市）
- 第 31 回日本国際保健医療学会（平成 28 年 12 月 3 日～4 日，久留米市）

イ）東京，大阪，長崎等での TMGH 修士課程進学説明会開催の際の PR
- TMGH 修士課程進学説明会を毎年度 6 回開催
  平成 27 年度：東京（3），札幌（1），京都（1），長崎（1）
  平成 28 年度：東京（4），大阪（1），長崎（1）

ウ）留学フェアへのブースの出展による PR
- ラオス日本センター主催（平成 27 年 10 月 27 日～28 日，ビエンチャン）
- カンボジア日本人材開発センター主催（平成 27 年 10 月 30 日～31 日，プノンペン）

エ）LSHTM Week 2016 Multiple sectors and multiple disciplines：opportunities and challenges の際の PR（平成 27 年 9 月 19 日～23 日，ロンドン）

オ）本学海外教育研究拠点（ケニア，ベトナム）における PR

カ）熱帯医学研修課程フォローアップ事業の際の PR

② 上記①による効果，反応

上記①のように，本研究科において，従来，種々の学生確保のための取組を行ってきた。TMGH 修士課程の過去の志願状況を分析すると，表 10 のとおり，志願者のうち説明会に参加した者の約半数が実際に志願しており，また，志願者出身地域の分布を調査すると，関東地方，関西地方及び九州地方を中心に全国各地から志願していることが分かる。これまで毎年行ってきた説明会等広報活動がいかに効果的であるかを裏付ける結果であると言える。

これらの結果から，国際連携専攻においても，説明会の開催地域や回数を増加させるなど，より効果的な学生確保の取組を検討していくこととしている。

また，説明会開催時に行ったアンケート調査結果においても，進学説明会の重要性，その効果等を十分に把握することができる。（別添「コメント集」参照）

説明会等 PR の場において，参加者のコメントには要望等も多く含まれていることか

ら，より質の高い学生を確保していくためにも，受験を検討している者に対して，より充実した内容，より効果的な説明会となるように検討を重ね工夫していきたい。

さらに，博士課程への進学者の多くは，研究科が実施する研究内容等を重視するものと考えられるため，TMGH 博士後期課程（国際連携専攻含む）においては，LSHTM 及び NCGM との連携により，世界レベルの研究を展開していくことで，継続的なニーズを維持していくこととしている。

＜進学説明会参加者と出願状況＞　　表 10

区　分		H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
説明会参加者数		73 名	70 名	95 名	60 名	49 名
次年度志願者数 （内説明会参加者）		22 名 （14 名）	18 名 （15 名）	52 名 （26 名）	42 名 （19 名）	※26 名 （12 名）
志願者 出身地域	北海道	0 名	0 名	2 名	1 名	1 名
	東　北	0 名	0 名	1 名	0 名	0 名
	関　東	11 名	6 名	24 名	8 名	8 名
	中　部	0 名	4 名	4 名	2 名	2 名
	関　西	4 名	4 名	4 名	6 名	6 名
	中　国	1 名	0 名	2 名	0 名	0 名
	四　国	0 名	0 名	1 名	0 名	0 名
	九州･沖縄	6 名	3 名	5 名	4 名	4 名
	海　外	0 名	1 名	9 名	5 名	5 名

※H28 年度については，平成 29 年 2 月 18 日現在の志願者数。

２　社会的な人材需要の見通し

2015 年先進国・開発途上国を問わず普遍的に開発に取り組むとした世界的な目標である「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が国連サミットで採択された。このアジェンダの中で，保健医療は主要な目標の一つとして掲げられ，「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し，福祉を促進する」ことが目指されている。日本政府は，この目標達成のため，保健分野外交の一環として「平和と健康のための基本方針」を策定し，体制整備の一つとして国内の国際保健人材の強化を掲げている。また，近年エボラ出血熱等の感染症が蔓延する地域も多く，平成 28 年 2 月「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」にて提示された「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画」の中で，国際感染症等対応人材育成の必要性が強く謳われており，国策としての人材養成の取組計画が検討されている。このように，日本の国際保健外交戦略からその必要性が認められるものの，これら国際保健分野における博士号取得者の割合は低く（特に日本人は低い），グローバルヘルス領域における実務の推進，研究によるエビデンスの創出又はエビデンスに基づいた意思決定などができる組織リーダーとなる人材が不足している。

開発協力事業を実施する JICA（国際協力機構）に，当該領域における博士号取得のニーズについて調査を実施したところ，国際潮流をリードする人材を育成すること，そのために必要な途上国の現場で保健医療協力の担い手として関わる人材を育成することが，これまでにも増して求められており，当該領域における博士号取得者の育成は非常に重要であるとの回答があった。さらに，JICA として国際連携専攻が設置された場合，本課程への入学を推奨したいとの意思も表示されている。

国際連携専攻では，下記のような人材養成像を目標に，既存の TMGH 修士課程より，さらに高い次元でグローバルヘルスを理論的・実践的に研究・創造する能力を備えた実践的・社会的リーダーとなり得る人材を養成するため，本格的な国際共同研究や国際共同プログラム等への参加が可能となる教育課程を構築する。

① グローバルヘルス全体を俯瞰する能力と知識を有する
② 日英が推進する国際共同研究や国際共同プログラムへの参加経験を介して，国際共同研究等において主導して研究・活動する能力を有する
③ 成果を公表して，グローバルヘルス領域の科学研究を推進する能力を有する
④ 科学的知見に基づき，実践においてもインパクトを与えられる能力を有する

実践と研究と教育が一体化されたグローバルヘルス領域では，このような博士レベルの人材が求められており，修了後の進路や社会での人材需要が十分にあると考えられる。また，就職先は国内に留まらず，全世界が対象となるものと考えられる。大学だけに就職するのではなく，企業，国際機関，国家行政機関，NPO，大学を自由に行き来できる人材を育成することが重要で，そのことによって，統合的なグローバルヘルス領域の活性化に貢献する。このように，国際連携専攻では，このグローバルヘルス領域において，国際的に寄与，活躍

できる人材を育成，輩出することを目的としており，修了生の社会的なニーズは，今後ますます高まっていくものと思われる。

そこで，具体的な人材需要の見通しを把握するため，調査実施機関(株式会社帝国データバンク)への委託によるアンケート調査を実施した。(別添「アンケート様式：例」参照)

＜アンケート回答数＞　　表 11

調査対象	抽出件数	回答数	回答率
約 160 万件	※ 222 件	49 件	22%

※委託先である株式会社帝国データバンクがデータとして所有する企業・団体等（以下「企業等」という。）約 160 万件の中から，企業等データに次に上げるキーワードが含まれる企業等の抽出を行い実施した。

ⅰ．　医療 or 医師 or 医者 を含み且つ 海外派遣 or 途上国
ⅱ．　デング熱 or マラリア or 黄熱病
ⅲ．　WHO or 世界保健機構 or ODA or NGO or JPO or ユニセフ
ⅳ．　医療 or 医学 or 医薬 を含み且つ 研究
ⅴ．　大学 且つ 歯学 or 薬学 or 医学 or 獣医学

（1）アンケート調査に基づく分析

① 企業を対象としたアンケート結果について

アンケートの結果，「NGO」，「NPO」，「医学・薬学研究所」，「大学研究所」，「医薬品製剤製造業」，「ワクチン製剤製造業」，「医療検査関連企業」，「開発コンサルタント」等から 49 件の回答が得られた。

回答を得られた 49 件のうち，リーダー又は幹部候補に持っていてほしい学位に「博士」と回答した企業等は，16 件（32. 7%）であった。

TMGH 博士後期課程修了者を「是非採用したい」，「前向きに検討したい」，「検討したい」と回答した企業等は，26 件（53. 1%）であり，回答があった企業等の約半数が関心を示していることが分かる。

また，TMGH 博士後期課程が設置された場合，社員の同研究科への進学を推奨すると回答した企業等は，5 件（10. 2%）であり，回答があった企業等の約 1 割が積極的な関心を示した。

TMGH 博士後期課程の定員が 10 名であることから，十分な需要があることが分かる。

② 研究科としての見通しについて

①の企業を対象としたアンケート結果のほか，グローバルヘルス領域での専門家派遣を含めた開発協力事業を実施する JICA に，当該領域における博士号取得者のニーズについて調査を実施したところ，「グローバルヘルスの領域において，現在，日本は国際的に大きな存在感を示しており，国際潮流をリードする人材を育成することや，そのために必要な途上国の現場で保健医療協力に担い手として関わる人材を育成することが，これまでにも増して重要となっている。グローバルヘルス領域のリーダー育成のためには，「現在のグローバルヘルス領域のリーダー」との人的なコネクションを早期に形成することが有効であり，当該領域における博士号取得者の育成は非常に重要であると考えられる」との回答があり，さらに，JICA として TMGH 博士後期課程が設置された場合，本課程への入学を推奨したいとの意思も表示されている。さらに，日本の国際保健外交戦略の中心であり，本研究科と学術交流協定を締結している NCGM にグローバルヘルス政策研究センターが設置される等，グローバルヘルス領域における博士号取得者育成の必要性について国内の関係業界からも強い要請があることが分かる。

TMGH 博士後期課程の収容定員が 10 名（うち 5 名が国際連携専攻）であることを考慮すると，本課程修了者に対して，十分な人材需要が見込まれていると判断される。2015 年に採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」や日本政府が保健分野外交の一環として国内の国際保健人材の強化を掲げていること等からも，グローバルヘルス領域の諸問題解決に対応できる人材は，今後も求められていくものと思われるため，国際連携専攻

で育成し，輩出する人材は，今後においても社会的需要が継続し，更に向上していくものと考える。

なお，本研究科では，NCGM サテライト東京の設置，海外大学との連携強化や共同研究の活発化によって，より質の高い人材を育成し，輩出し続けていくことを計画しており，今後も増加するであろう社会的需要にも対応していくこととしている。

また，前述のとおり，TMGH 修士課程の学生の約半数は留学生であり，その多くは JICA が実施する途上国行政官の派遣事業からの受入となっている。国際連携専攻においても，同様に多くの留学生を受け入れる可能性が高く，当該留学生は学位取得後，自国の保健省等に戻っていくことから，海外での出口（受入先）も多く存在していると判断することができる。

さらに，本研究科は，全ての講義・指導を英語で実施することから，日本人学生の就職先は，国内に留まらず，今回アンケート調査を実施していない世界の企業等からも強いニーズがあると考える。

進学検討者の実受験率を１割と仮定することについて

【１】平成 28 年度

区　　分	国立大学	公立大学	私立大学	合計
平成 28 年 3 月 大学院修士課程修了者数	41, 784	4, 507	24, 725	71, 016

71, 016 名のうち，大学院等への進学者数は「6, 674 名」（修了者の 9. 4%）

【２】平成 27 年度

区　　分	国立大学	公立大学	私立大学	合計
平成 27 年 3 月 大学院修士課程修了者数	41, 932	4, 573	24, 796	71, 301

71, 301 名のうち，大学院等への進学者数は「7, 072 名」（修了者の 9. 9%）

【３】平成 26 年度

区　　分	国立大学	公立大学	私立大学	合計
平成 26 年 3 月 大学院修士課程修了者数	42, 716	4, 638	25, 800	73, 154

73, 154 名のうち，大学院等への進学者数は「7, 259 名」（修了者の 9. 9%）

＜文部科学省 学校基本調査より抜粋＞

【１】～【３】のとおり，平成 26～28 年度の各年度における修士課程修了者の大学院等へ進学率は，修了者数の約 1 割であることが分かる。

アンケート調査において，大学院進学希望者で「TMGH 博士後期課程への進学を検討したい」と回答した者が，実際に TMGH 博士後期課程への進学を志願する割合について，上記調査結果を基に「1 割」と仮定するものとする。

別添「コメント集」

TMGH 修士課程進学説明会時のコメント

＜進学に関心を示すコメント＞

・進学したい気持ちが大きくなりました。準備など進めていきたいと思います。
・お話を聞かせていただいて，今からもっと色々な経験を積んで絶対進学しようと思いました。
・いずれ MPH へと思っておりましたが，すぐにでも学びたい気持ちが高まりました。
・修了生からの体験談もあり，学生生活を想像することもとできた。研究科長や准教授からの説明や話を聞けて，先生方の熱意や情熱も感じることができた。頑張って受験したいと思う。

＜カリキュラム等に関するコメント＞

・英語での講義，他大学や様々な国際協力機関とのつながり，長期の研修システムなど非常に魅力のあるプログラムが多く，是非進学したいと感じました。
・卒業生の方より，具体的な 2 年間の学びや学習内容・フィールド研修の様子・今後のキャリアについてお聞きすることが出来，とても良かったです。特に結婚・妊娠も含めたキャリア形成のお話が同じ女性としてとても参考になりました。
・HP でカリキュラムは拝見していたのですが，より詳しく何を目標として学習できる状況なのか知ることができました。
・大学院のことを詳しく知れたことで自分のキャリアパスに合うかなど確認することが出来ました。
・医療関係の人間でなくても出来ることがあるという希望がお話を聞くことで見出せました。

＜説明会開催に関するコメント＞

・ネットでは知ることが出来ない具体的な情報を知ることが出来て，大変有意義だった。
・充実した内容で有意義な時間を過ごせました。大学進学説明会ではなく国際協力の勉強会としても有効だったと思います。
・調べるだけでは得られない貴重な情報を沢山聞けたので，大変満足しております。
・大阪を含め，各地での説明会参加の機会をいただきありがとうございました。
・このような説明会を長崎以外の都市で開催していただけて，とても役立ちました。
・子連れでも温かく受け入れて頂き感謝しています。

「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）」設置に関するアンケート調査ご協力のお願い

【設置の趣旨】

従来，保健医療分野での国際協力，国際貢献は，医師，看護師などの医療関係者に限られていました。昨今は，疾病治療だけでなく，疾病予防，健康な生活環境の創造，治療薬の研究・開発，通信技術等を活用した診療環境の整備等，病原体・疾患から環境・保健医療政策までの対応が国際保健医療分野では求められており，医療関係者だけでなく幅広い分野の知識を持った人材が活躍しています。

また，これらの課題は，開発途上国のみならず，地球規模で住民の健康，安心・安全な生活を考え，守るという観点から，「グローバルヘルス（地球規模の保健）」という言葉が使われるようになってきました。

長崎大学は，あらゆる既存の学術境界を越えた新たな総合的アプローチにより世界の健康問題の解決を目指すグローバルヘルス領域で国際的に活躍できる人材を養成する「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（修士課程）」を，平成 27 年度（2015 年）にロンドン大学衛生・熱帯医学大学院との組織的連携により設置し，修士レベルの実務専門家及び学術専門家を養成するグローバルヘルス教育を実施してきました。

しかし，修士課程修了者の中にはさらに研究を深めるため，博士課程進学を希望する者も多く，また国際的にも，グローバルヘルスという複雑化した統合領域の課題解決に必要な知識とリーダーシップを持つ博士レベルの人材養成の必要性が高まってきています。

そこで，本学では，前述した社会的及び国際的なニーズに応えるべく，「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）」を設置する計画を進めています。ここでは，引き続きロンドン大学衛生・熱帯医学大学院との連携により，世界で活躍するために必要な国際経験と多岐にわたる学術的視野を授け，熱帯医学からグローバルヘルスまでを教授できる日本で唯一の高等教育機関として，世界の保健医療分野における国際貢献に寄与する人材を養成したいと考えています。

御多用のところ誠に恐縮ではございますが，本調査の趣旨をご理解いただき，アンケート調査に，ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。|

【現行修士課程】　　【新設・博士後期課程】

研究科	熱帯医学・グローバルヘルス研究科（School of Tropical Medicine and Global Health）			
専攻	グローバルヘルス専攻（Department of Global Health）			
過程・コース	修士熱帯医学コース（Tropical Medicine Course）	修士国際健康開発コース（International Health Development Course）	修士ヘルスイノベーションコース（Health Innovation Course）	博士課程
学位	修士（熱帯医学）	修士（公衆衛生学）	修士（医科学）	博士（グローバルヘルス）
設置	平成27年4月1日（開校は同年10月）			平成30年4月1日（開校は同年10月予定）
修業年限	1年	2年	2年	3年
使用言語	英語			英語
入学時期	10月			10月
入学定員	12名程度	10名程度	5名程度	10名程度
入口（※望ましい）	社会人対象 2年以上の臨床経験を持つ医師	大学を卒業した学士（※実務経験）	大学を卒業した学士	熱帯医学・グローバルヘルス研究科、ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院修士課程修了者で、将来的にグローバルヘルス領域においてリーダーとなる資質を持った者
カリキュラム	熱帯地・途上国の臨床現場において必要とされる臨床能力と、応用研究を実施するための基礎的研究能力を教授することを主眼とする。	国際保健／GHの現場における実務専門家（国際機関職員等）に必要とされる実践的能力を教授することを主眼とする。	熱帯医学、国際保健／GHのある特定領域における応用研究を実施するための基礎的研究能力を教授することを主眼とする。	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院、国立国際医療研究センターとのコラボレーションし、世界トップレベルの研究者との共同研究による指導を中心とする。
出口	研究マインドを持った臨床医	実務専門家（国際機関職員等）	学術専門家（研究者等）	グローバルヘルスに新たなイノベーションをもたらす人材（大学・企業研究者または国際機関の管理職等）

既設

【新設】博士課程へ進学

「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）」設置に関するアンケート

Q1　回答者属性を回答ください【専攻】

1. 医学・保健（医学，歯学，薬学，看護学等）
2. 人文学（文学・語学，史学，哲学・心理学）
3. 社会科学（法学・政治学，国際関係，商学・経済学，社会学・社会心理学）
4. 教育（教育学，教員養成等）
5. 理学（数学，物理学，化学，生物，地学等）
6. 工学（機械工学，電気通信工学，土木建築学，応用化学等）
7. 農学（農学，獣医学・畜産学，水産学等）
8. その他（具体的に：　　）

Q2 回答者属性を回答ください【年次】

1. 学部課程　1年生　2. 学部課程　2年生　3. 学部課程　3年生
4. 学部課程　4年生　5. 学部課程　5年生　6. 学部課程　6年生
7. 修士・博士前期課程　1年次生　8. 修士・博士前期課程　2年次生
9. 博士・博士後期課程　1年次生　10. 博士・博士後期課程　2年次生
11. 博士・博士後期課程　3年次生　12. 博士・博士後期課程　4年次生

Q3 熱帯地域，開発途上国における国際協力・国際貢献に対して関心がありますか？

1. ある　2. ない

Q4 将来，国際協力・国際貢献に関連する分野の職業・研究に関わりたいですか？

1. 関わりたい　2. 関わりたくない　3. わからない

→（1）回答はQ５以降へ　→（2），（3）回答はQ６以降へ

Q5 （Q4の回答が(1)の場合）就職先として希望している職種のイメージはどのような分野ですか？（複数回答）

1. 国際機関・NGO 等
2. 大学や公的研究機関
3. 医療機関
4. 企業：研究・開発
5. その他（具体的に：　）

Q6 将来，大学院進学を希望していますか？（博士・博士後期課程の方は除く。）

1. 修士・博士前期課程までの進学を希望している
2. 博士・博士後期課程までの進学を希望している
3. 希望していない
4. わからない
5. 上記以外（具体的に：　）

→（1），（2）回答はQ７以降へ　→（3），（4），（5）回答はアンケート終了です。

Q7 大学院進学を希望する理由はなんですか。（複数回答可）

1. より高度な知識を身につけたいから
2. 希望する就職先において必要・有利だから
3. 研究に興味があるから
4. その他（具体的に：　）

Q8 冒頭でご案内した，熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）が設置されたら，将来的に同研究科へ進学し，博士（グローバルヘルス）を取得したいと思いますか？

1. ぜひ進学したい
2. 進学を検討したい
3. 進学したくない
4. わからない

→（1）回答はQ９へ　→（2），（3），（4）回答はアンケート終了です。

Q9 Q8 で新たに設置される熱帯医学グローバルヘルス研究科（博士後期課程）への進学に，「ぜひ進学したい」と回答された理由をお答えください。（複数回答可）

1. 国際協力，国際貢献に関わりたいから
2. 熱帯医学やグローバルヘルスに興味があるから
3. 熱帯医学や公衆衛生学の学位の取得を目指しているから
4. 将来働きたい分野に役立ちそうだから
5. 高度な研究ができそうだから
6. その他（具体的に：　）

Q10 熱帯医学・グローバルヘルス研究科博士後期課程では，将来的にロンドン大学衛生・熱帯医学大学院とのジョイントディグリー創設を検討しております。このジョイントディグリーが創設された場合，熱帯医学・グローバルヘルス研究科に進学し，学位を取得したいですか？

1. ぜひ進学したい
2. 進学を検討したい
3. 進学したくない
4. わからない

ご協力ありがとうございました。

平成28年11月吉日

関係事業所各位

「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）」設置に関するアンケート調査ご協力のお願い

拝啓，貴社ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

また，平素は弊社帝国データバンク（以下ＴＤＢ）の信用調査業務にご理解，ご協力をいただき，厚く御礼申し上げます。この度ＴＤＢでは長崎大学より，以下に紹介しますアンケート調査を受託いたしました。

長崎大学では，以下の趣旨により，平成30年度（2018年）に「熱帯医学・グローバルヘルス研究科博士後期課程」の設置を計画しています。設置準備を進めるに当たり，本博士後期課程への関心度，ニーズ等についてアンケート調査を実施いたします。

つきましては，設置の趣旨をご一読の上，以下のアンケートにご協力ください。

【設置の趣旨】

従来，保健医療分野での国際協力，国際貢献は，医師，看護師などの医療関係者に限られていました。昨今は，疾病治療だけでなく，疾病予防，健康な生活環境の創造，治療薬の研究・開発，通信技術等を活用した診療環境の整備等，病原体・疾患から環境・保健医療政策までの対応が国際保健医療分野では求められており，医療関係者だけでなく幅広い分野の知識を持った人材が活躍しています。

また，これらの課題は，開発途上国のみならず，地球規模で住民の健康，安心・安全な生活を考え，守るという観点から，「グローバルヘルス（地球規模の保健）」という言葉が使われるようになってきました。

長崎大学は，あらゆる既存の学術境界を越えた新たな総合的アプローチにより世界の健康問題の解決を目指すグローバルヘルス領域で国際的に活躍できる人材を養成する「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（修士課程）」を，平成27年度（2015年）にロンドン大学衛生・熱帯医学大学院との組織的連携により設置し，修士レベルの実務専門家及び学術専門家を養成するグローバルヘルス教育を実施してきました。

しかし，修士課程修了者の中にはさらに研究を深めるため、博士課程進学を希望する者も多く，また国際的にも，グローバルヘルスという複雑化した統合領域の課題解決に必要な知識とリーダーシップを持つ博士レベルの人材養成の必要性が高まってきています。

そこで，本学では，前述した社会的及び国際的なニーズに応えるべく，「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）」を設置する計画を進めています。ここでは，引き続きロンドン大学衛生・熱帯医学大学院との連携により，世界で活躍するために必要な国際経験と多岐にわたる学術的視野を授け，熱帯医学からグローバルヘルスまでを教授できる日本で唯一の高等教育機関として，世界の保健医療分野における国際貢献に寄与する人材を養成したいと考えています。

本アンケートは，国際協力・国際貢献，医薬・医療の研究・開発等の関連企業・団体様，及び大学附属研究所様等を対象にお送りさせていただきます。

御多用のところ誠に恐縮ではございますが，本調査の趣旨をご理解いただき，アンケート調査に，ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

回答用紙は同封しました返信用封筒（切手不要）にて，
11月25日（金曜日）まで に返信・送付くださるようお願い申し上げます。

＜調 査 主 体＞ 長崎大学 熱帯医学・グローバルヘルス研究科
事務室 担当：米田，末永 TEL: 095-819-7583
＜調査実施機関＞ 株式会社帝国データバンク 産業調査部
産業調査第5課 担当：川上，平井 TEL: 03-5775-1091

「熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）」設置に関するアンケート調査票

※本学では，平成 30 年度に新たに熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）の設置を計画しています。
別紙「設置の趣旨」をご一読いただき，貴社・貴団体の同研究科に対する関心度等について，以下のアンケート調査にご協力ください。

■■　留意事項　■■

- お忙しいところ大変恐縮ですが，ご回答後は 11 月 25 日（金） までに同封の返信用封筒（切手不要）にて，投函していただきますようお願いします。
- ご回答結果はすべて統計的にデータ処理をした後，本調査の目的に限定して使用させて頂きます。また，ご記入いただいた情報の取り扱いについて，本アンケート調査委託先の株式会社帝国データバンクと守秘義務契約を締結しております。

■貴社概要をご記入ください

貴社・団体名	

■ご回答者様の連絡先をご記入ください

部署・役職	
ご芳名	
電話番号（部署もしくは代表）	

■ あてはまる番号に○印をつけてください。
■ 比率については合計が 100%となるようご記入ください。

【現行修士課程】　　【新設・博士後期課程】

研究科	熱帯医学・グローバルヘルス研究科（School of Tropical Medicine and Global Health）			
専攻	グローバルヘルス専攻（Department of Global Health）			
過程・コース	修士熱帯医学コース（Tropical Medicine Course）	修士国際健康開発コース（International Health Development Course）	修士ヘルスイノベーション コース（Health Innovation Course）	博士課程
学位	修士（熱帯医学）	修士（公衆衛生学）	修士（医科学）	博士（グローバルヘルス）
設置	平成27年4月1日（開校は同年10月）			平成30年4月1日（開校は同年10月予定）
修業年限	1年	2年	2年	3年
使用言語	英語			英語
入学時期	10月			10月
入学定員	12名程度		5名程度	10名程度
入口（中堅あしり）	社会人対象 2年以上の臨床経験を持つ医師	大学を卒業した学士（中実務経験）	大学を卒業した学士	TMGH、LSHTM修士課程修了者で、将来的にグローバルヘルス領域においてリーダーとなる資質を持った者
カリキュラム	熱帯地・途上国の臨床現場において必要とされる臨床能力と、応用研究を実施するための基礎的研究能力を教授することを主眼とする。	国際保健／GHの現場における実務専門家（国際機関職員等）に必要とされる実践的能力を教授することを主眼とする。	熱帯医学、国際保健／GHのある特定領域における応用研究を実施するための基礎的研究能力を教授することを主眼とする。	LSHTM、NCGMとのコラボレーションし、世界トップレベルの研究者との共同研究による指導を中心とする。
出口	研究マインドを持った臨床医	実務専門家（国際機関職員等）	学術専門家（研究者等）	グローバルヘルスに新たなイノベーションをもたらす人材（大学・企業研究者または国際機関の管理職等）

【新設】博士課程へ進学

既設

問 1　貴社・団体の近年における採用者の学位保有状況について回答ください。
※全体を 100%として，概ねの比率を記入下さい。

（1）学士　＿＿%　（2）修士　＿＿%　（3）博士　＿＿%　（4）その他　＿＿%

問 2　今後，リーダー又は幹部候補に持っていてほしい学位を一つお選びください。

（1）　学士　（2）　修士　（3）　博士　（4）　その他（具体的に　　）

※問 3 以降の設問につきましては，貴社・貴団体の関連企業等，グループ全体としてお答えください。

問 3　別紙の「設置の趣旨」により長崎大学において，新たに設置を検討しています熱帯医学・グローバルヘルス研究科（博士後期課程）を修了し，博士の学位を取得した学生の採用意向についてお聞かせください。

（1）是非採用したい　（2）前向きに検討したい　（3）検討したい　（4）検討しない
（5）その他（具体的に　　）

問 4　採用にあたり，学生に求める能力で，重視する項目をお選びください（複数回答可）

（1）革新性・先進性　（2）リーダーシップ・積極性　（3）グローバル対応力・語学力
（4）コミュニケーション力・協調性　（5）その他(具体的に　　)

以下は〈社員・職員の再就学について〉お答えください

問 5　同研究科が設置されたら，貴社社員・貴団体職員の同研究科への進学を推奨しますか？

（1）推奨する　（2）推奨しない　（3）勉強は個人裁量としている
（4）その他（具体的に　　）
→（1）回答は問 6 へ　（2）～（4）回答は問 7 へ

問 6　（問 5 で（1）推奨する　と回答した方にお伺いします）
貴社社員・貴団体職員のなかで，現状推奨したい人数をお答えください。

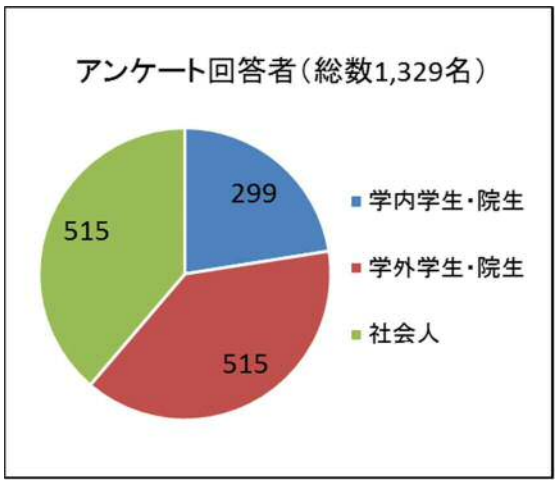
（1）1～2 名　（2）3～5 名　（3）6 名以上　（4）具体的には判らない。

問 7　貴社・貴団体において、貴社社員・貴団体職員の方へ同研究科への進学を推奨いただける場合の条件等がありましたら、お聞かせください。

アンケートは以上です。ご協力，誠にありがとうございました。

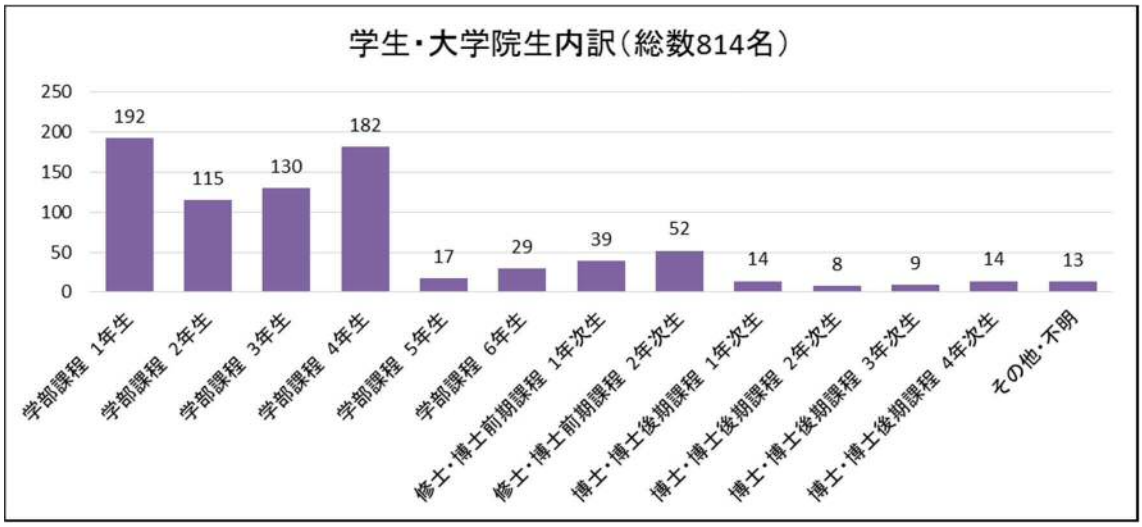
■アンケート調査回答者の概要

（図１）



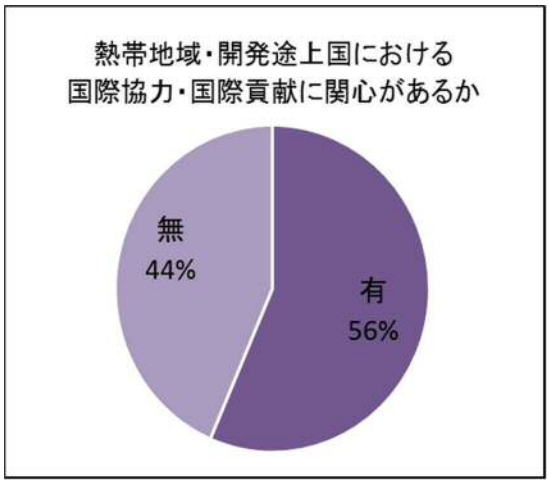
（図２）

（図３）

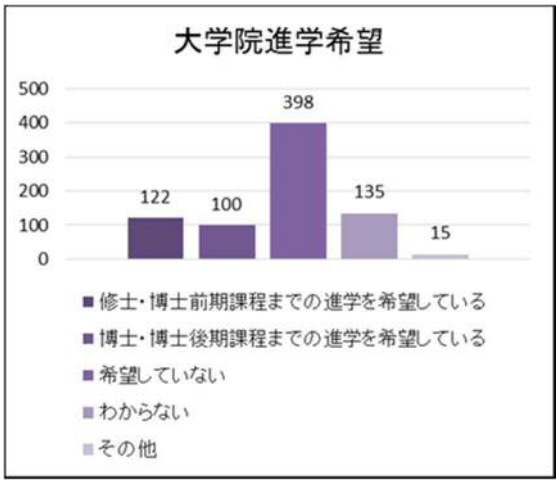


■学生・大学院生：アンケート調査結果

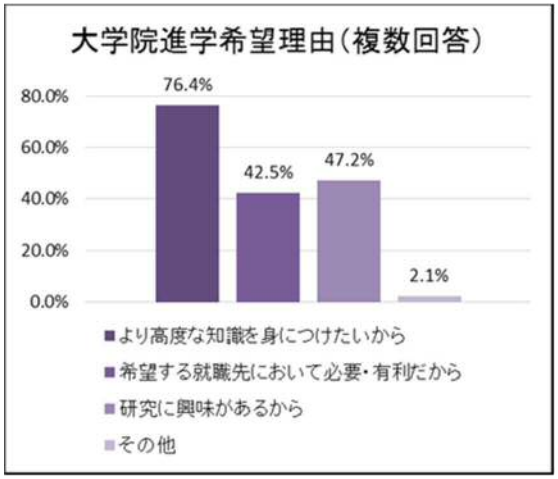
（図４）



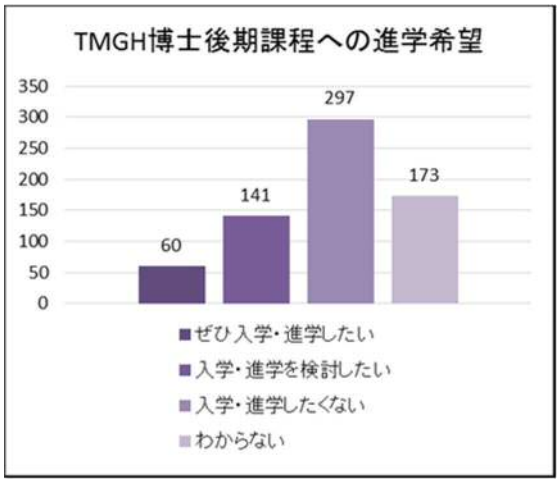
（図５）



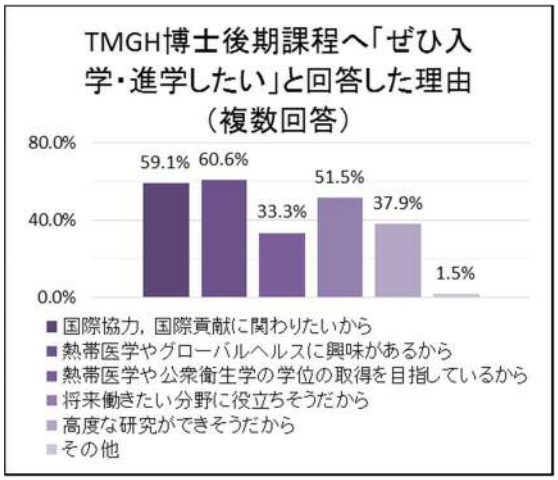
（図６）



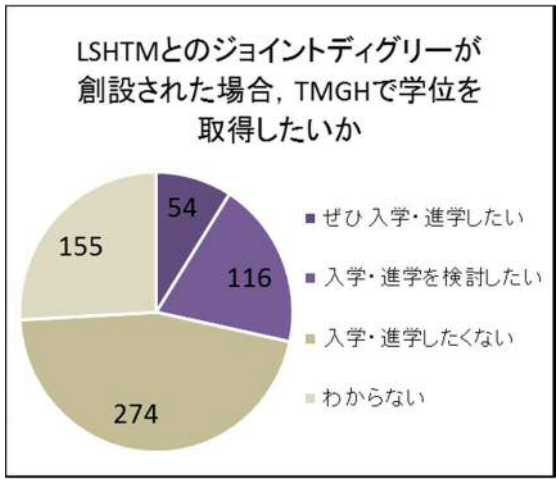
（図７）



（図８）

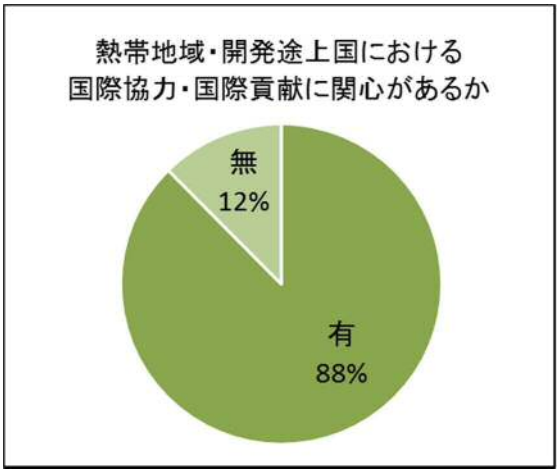


（図９）

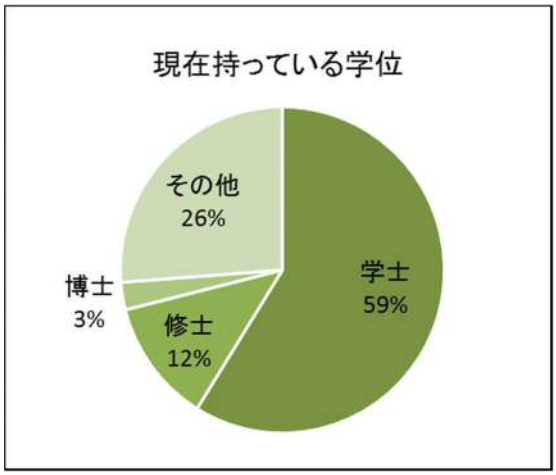


■社会人：アンケート調査結果

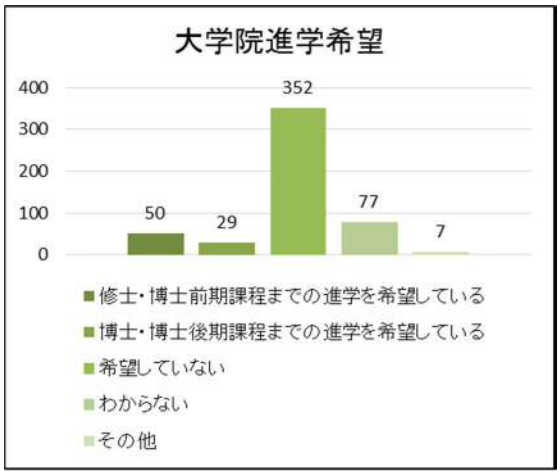
（図１０）



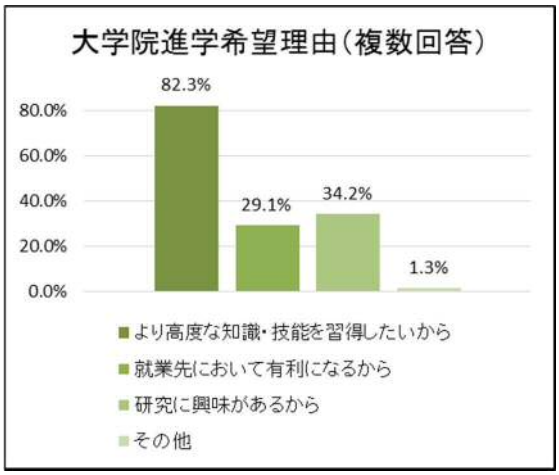
（図１１）



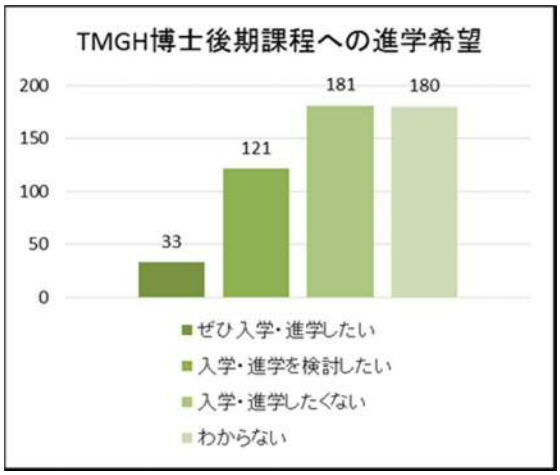
（図１２）



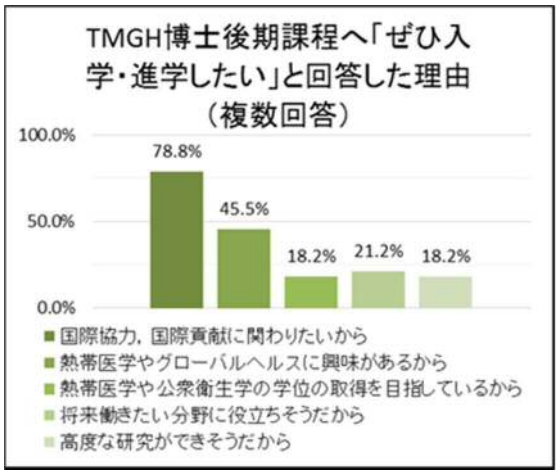
（図１３）



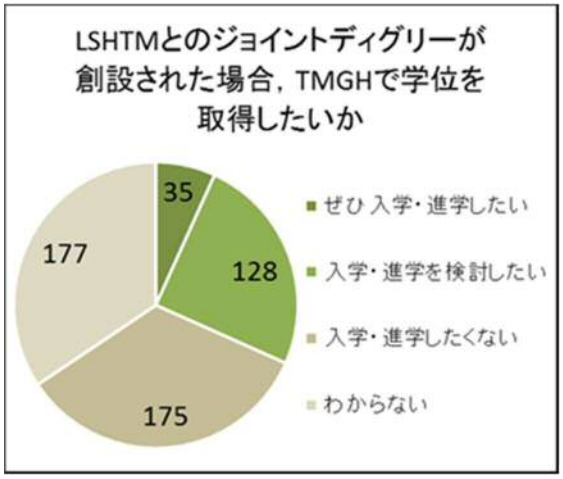
（図１４）



（図１５）

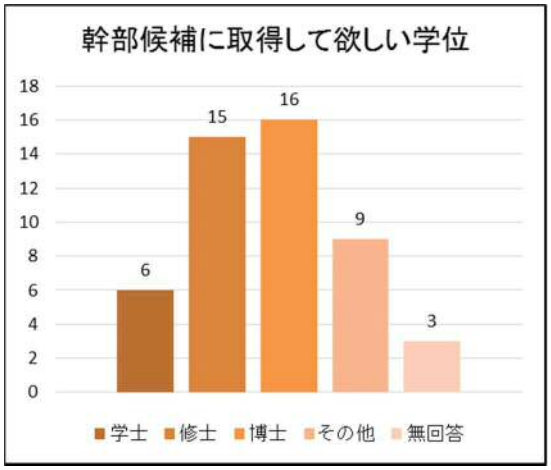


（図１６）

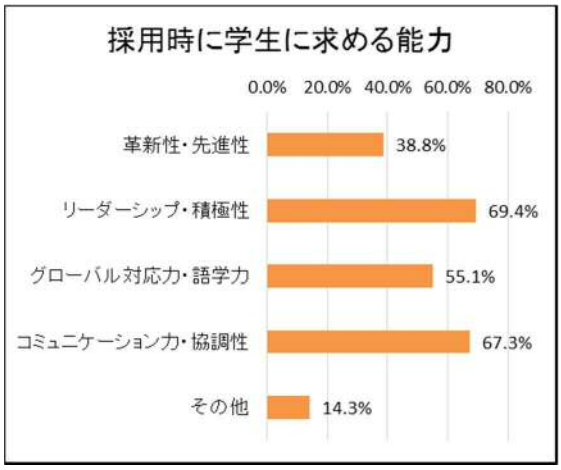

LSHTMとのジョイントディグリーが
創設された場合，TMGHで学位を
取得したいか
35
128
175
177
ぜひ 入学・進学したい
入学・進学を検討したい
入学・進学したくない
わからない

■企業：アンケート調査結果

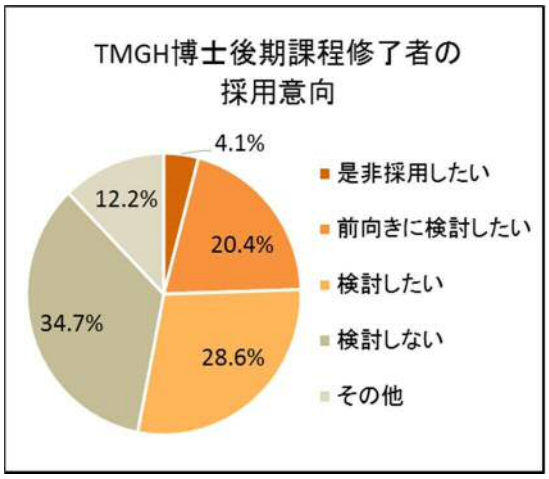
（図１７）



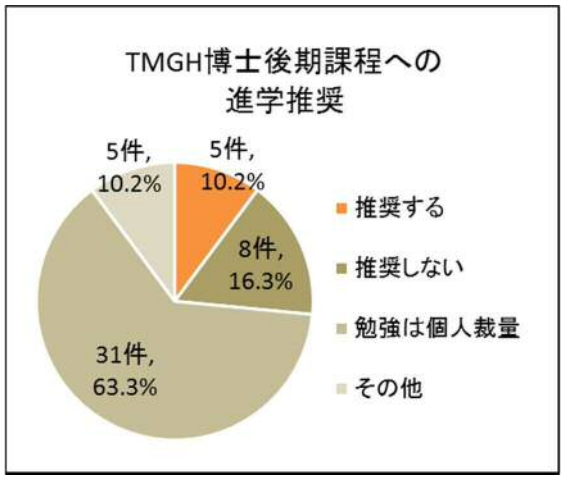
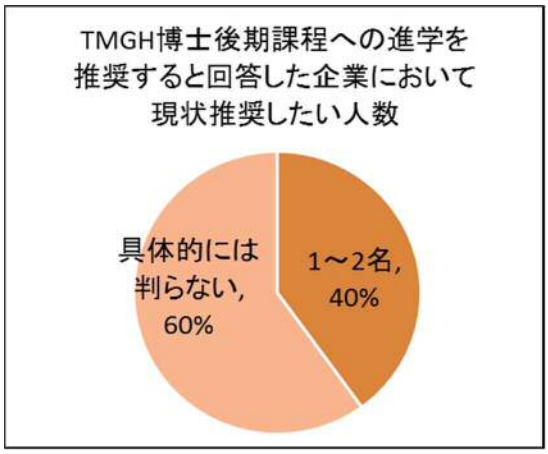
（図１８）



（図１９）



（図２０）



（図２１）